



天を造り出し、  
これを引き延べ、  
地とその産物を押し広め、  
その上の民に息を与え、  
この上を歩む者に  
霊を授けた創造主は  
こう仰せられる。  
わたし、主は、  
義をもってあなたを召し、  
あなたの手を握り、  
あなたを見守り、  
あなたを民の契約とし、  
国々の光とする。

天を造り出し、  
これを引き延べ、  
地とその産物を押し広め、  
その上の民に息を与え、  
この上を歩む者に  
霊を授けた創造主は  
こう仰せられる。  
わたし、主は、  
義をもってあなたを召し、  
あなたの手を握り、  
あなたを見守り、  
あなたを民の契約とし、  
国々の光とする。

Photo Credit: Wikimedia Commons



## 聖書に真理を探求する

最初に訴える者は、その相手が来て  
彼を調べるまでは、正しく見える。  
箴言 18:17

宇佐神 実 ジェネシスジャパン会長

慣例にとらわれず、聖書に真理を探求したルター

ニュースレター第42号では、科学者は自分の信じる主観（世界観・自然観・思想・先入観）を追求するという事実について考察しました。

これは科学に限りません。人は自分が学び信じている主観に基づいて物事を判断し、主観に沿った結論を出そうとします。冒頭の箴言のことばにもあるように、最初に教えられたことが正しく見えるものです。

ですから万物の起源に関して、最初に何を教えられるかで各人の主観ができあがります。進化論を教えられると進化論が正しく見え、進化論と聖書の折衷案が正しいと教えられるとそのように見えます。

しかし私たちは真実を知りたい

と願います。そのためには、聖書が本当に何を教えているかを知る必要があるのです。

今回は、進化論を受け入れた神学者が広く主張するようになった間隙説（再創造説）について検討しながらこのことを考えたいと思います。

### 間隙説：Gap Theory

「間隙説」は「滅亡-再創造説」あるいは単に「再創造説」などとも呼ばれています。18世紀の地質学者ハットンが、地球は遙か昔から存在していると主張し、19世紀初頭に入ると、大学の地質学者の多くがその考えの影響を受けるようになりました。

これに対して1814年に神学者

トーマス・チャーマーズは、進化論的地質学に聖書の創造論を一致させようと、間隙説を述べました。これは、それまでほとんど知られていなかった16-17世紀の神学者エписコピウスが提唱したものです。彼は、創世記1:2の「**やみが大きいなる水の上**にあり、**神の霊は水の上を動いていた。**」を再創造の初めと解釈することで、進化論的地質学と聖書の文字通りの天地創造とを矛盾なく受け入れることができると考えたのです。

1940頃までの聖書注解書は、ほぼすべて「天地創造は紀元前4000年頃」「創世記1章全体は文字通りの六日間」と説明していますが、1940年代頃から間隙説の解釈が散見されるようになり、スコフィールド注解付き聖書でこ

れが紹介されると、多くの人に広く受け入れられるようになりました。この間隙説にはいくつかのバリエーションが存在しますが、最初に主張されたのは、滅亡 - 再創造説です。まず、この内容を説明します。

**1) 滅亡 - 再創造説：**初めに創造主は、天使たちの世界を創造した。当時の人間は創造主から人の霊を持たないアダム原人と呼ばれる動物であって、進化論上の人類の祖先に相当する。当時の世界はサタンが創造主に逆らったことで裁かれ、世界は「ルシファーの洪水」で滅ぼされた。この洪水で地層ができ、当時の動植物が埋め込まれて化石となった。この結果、水に覆われ混沌として地質学的長い年月（間隙）が過ぎた（創世記 1:2 前半まで）。その後、聖霊が水を覆い再創造が文字通りの六日間で行われ、今度は人に霊が与えられ、現在の世界が創造された。

この滅亡 - 再創造説を土台として間隙説のいくつかのバリエーションが登場します。

**2) 創造前間隙説：**天使たちの創造と滅亡を創世記 1:1 以前とし、他は 1) に準じる。

**3) 修正間隙説：**創世記 1:2 と 1:3 の間に間隙が存在したとし、1:3 の「光よ。あれ。」を再創造の始まりとする。他は 1) に準じる。

**4) 穏健間隙説：**3) の修正間隙説同様 1:3 を再創造の始まりとするが、地層や化石はノアの大洪水に起因するとする。

**5) 後期間隙説：**創世記 2 章と 3 章の間に間隙があったとする。

現在、間隙説の立場を取る人は、この 5 つの立場のいずれか、あるいはそれらをアレンジした立場です。間隙の時間の長さも、進化論

に合わせるもの、不特定とするもの、天使の墮落後すぐ再創造が起こったとするものもあります。

先にも述べたように、人は自分の主観に基づいて結論を出そうとします。間隙説も例外ではなく、その主観に基づいて証拠を解釈しようとしています。そのため、ヘブル語の意味や文法、聖書解釈に間隙説に合うような証拠（新しい定義や解釈）を模索するのです。そうして見出した証拠に基づいて、間隙説には聖書的裏付けがあると説明するのです。

### 間隙説と聖書解釈

間隙説を検討してみましょう。

**1) 非常によかった。**：創世記 1:31 で創造の第 6 日の最後に創造主がそれまでに造られたすべてのものをご覧になって「非常によかった。」と述べました。創世記 1 章全体が文字通りの六日での創造であれば、そこには天使の墮落も動物の死もなく、文字通り「非常によかった。」とある通りです。

しかし間隙説では、最初天使たちの世界が創造されて滅ぼされ、その後人の世界が再創造されたと主張するため「非常によかった」を再創造された世界に限定します。さもないと、サタンの墮落も非常によかったことになってしまうからです。

次節の創世記 2:1 を見ると「**こうして、天と地とそのすべての万象が完成された。**」とあり、非常によかった 6 日間の天地創造に創世記 1:1 に出てくる「天と地」も含まれています。すると、創造前間隙説以外の間隙説は、ここで矛盾が生じます。

**2) 文法的側面：**間隙説では、創世記 1:2 「**地は形がなく、何もなかった。**」の文中の動詞「ハイヤー

(～た。)」には、ストロング・コンコルダンス（聖書辞書）によると「～となる。(英語の become)」の意味もあるので、天使の墮落の結果「地は…何もなくなった。」と解釈されるべきだと主張します。しかしヘブル語学者の野口誠氏にも確認しましたが、この解釈は誤りです。創世記 1:2 のような「ワウ + 名詞 + ハイヤー」の文法形式では、ハイヤーはハイエタと語尾変化し、この場合常に「～た。(英語の was)」の意味となります。「～となった。(英語の become)」と訳すことはできないのです。

**3) 意味の読み込み：**「形がなく、何もない (ヘブル語のトーフ・ワ・ボーフ)」というフレーズは、創世記 1:2 の他にエレミヤ書 4:23 にもでてきます。間隙説に立つアーサー・カスターズらは、エレミヤ書では滅びの結果「形もなく、何もない」状態になったのだから、このフレーズには滅びが含意されているとし、創世記 1:2 も滅ぼされた結果と解釈すべきだと主張しました。

しかし実際には、このフレーズは単に「何もない」「空っぽ」の意味しかありません。ここに「滅びによって何もない」と意味を読み込んでしまうことは避けるべきでしょう。

例えば、新品のホワイトボードも、何かを書いて綺麗に消したホワイトボードも、どちらも真っ白で、どちらもトーフ・ワ・ボーフの状態と言えるのです。一回書いて消したものしか真っ白と言わないわけではありません。

**4) 十戒の石板：**出エジプト 20:11 は「**主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。**」と創造主の

直筆で十戒の石の板に書き記された言葉です。ここには、文字通りの六日間で天も地もそこに含まれるすべてのものも造られたと述べています。当然モーセも、そう信じたでしょう。

一方間隙説では、ヘブル語のバラ（創造）とアサ（造る）は意味が全く異なり置き換えることはできないと主張します。すなわち、十戒は「造る（アサ）」が使われているので、創世記 1:1 の「創造（バラ）」ではないから、ここは間隙以降の再創造を指すとします。

しかし実際には、「アサ（造る）」は「バラ（創造：初めて造る）」の場合も使われています。創世記 1:26-27 の人の創造では、最初「バラ（創造）」が使われ後で「アサ（造る）」と置き換えて使われているので、この主張は誤りです。

**5) 初めから人を造った：**間隙説では、最初に天使の世界が造られその後不特定の間隙（進化論的長い年月）が経過して、その一番最後、今から約 6000 年前の六日間で再創造が行われて人も造られたと主張します。しかしマタイ 19:4、マルコ 10:6 では、創造主が「初めから人を男と女に造って…」と述べ、歴史の初めに当たる今から約 6000 年前、天地創造の最初の六日間で人が造られたことをキリスト自身が教えています。

**6) 罪と死と救い：**ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がった（ローマ 5:12）とあり、アダムによって罪と死が入ったことが教えられています。ですからアダムが罪を犯すまで地は呪われておらず、死も存在しませんでした。もし再創造の前に一度世界が滅ぼされて被造物の死があったなら、アダムの罪

と死は関係がなく、キリストの救いもアダムの罪と関係なくなり、パウロのことばと矛盾します。

私が「聖書が教えている」と信じている主観は、「創世記 1 章の天地創造全体が文字通りの六日間で行われた。」というものです。そうすると、「天と地とそこに含まれるすべてが非常によい状態で完成した」「天地創造の一週間の後にサタンが創造主に反逆した」「そしてサタンはエバを誘惑し、アダムに罪を犯させた」「その結果呪われ死が入った」とそのまま聖書を解釈することができます。

### なぜ間隙を挿入したいのか

19 世紀にこのような間隙説が広く受け入れられるようになった原因は、進化論の台頭です。「地球の歴史は長い年月が必要だ」との主張に対し、長い時間の経過（間隙）を創世記の 1 部に挿入することで問題を解決しようと考えたのです。現在でも、間隙説が支持される主な理由は、間隙があれば「星の光が地球に到達する時間」「放射性年代測定法の地球の年齢」など、進化論の主観に立つ科学の結論（何億年という長い年月）との矛盾を避けるためです。

今号でも再度述べますが、進化論の主観に立つなら証拠も進化論の主観で解釈し、進化論の結論がでできます。もし進化論と聖書の両方を信じる主観に立つなら、証拠の解釈も進化論と聖書の折衷案となり、そのような結論に至ります。このため、進化論と矛盾する聖書の教え削除されます。

### 聖書信仰に立とう

**聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の**

**訓練とのために有益です。（2 テモテ 3:16）**

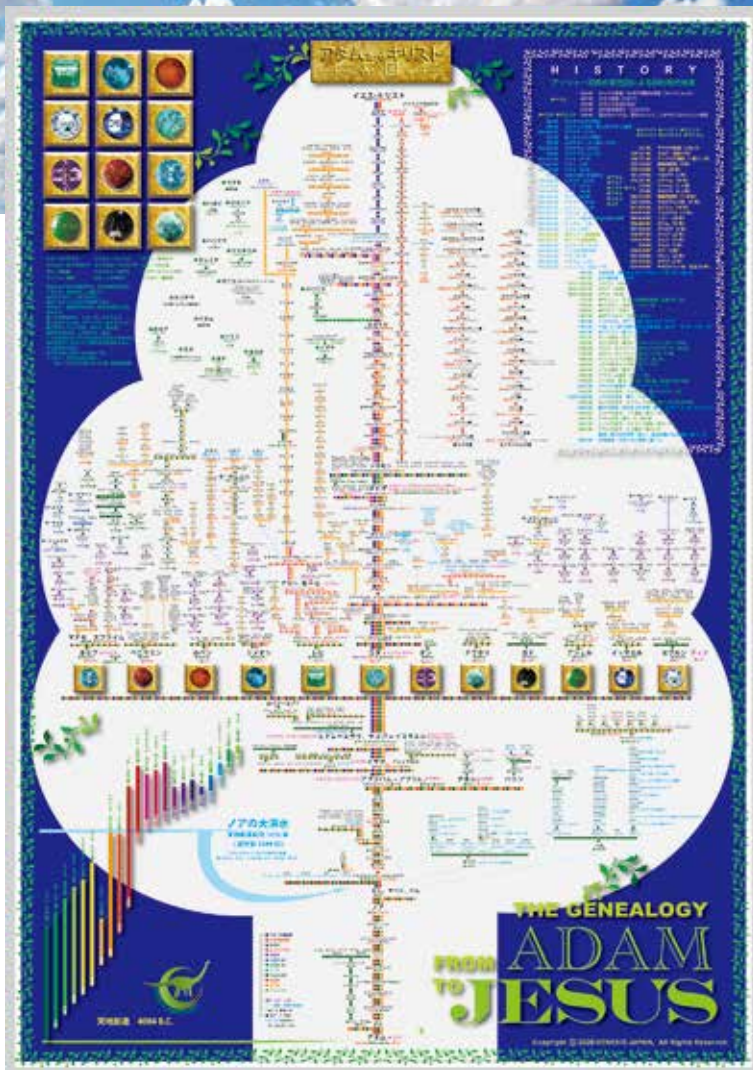
**私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。（ローマ 12:3）**

人は最初に聞いた教えが正しく見えるものです。どんなに聖書を信じている人も、最初からすべてを理解できているわけではありません。聖書の言葉の前に謙遜になって聖書信仰に立とうとすることで、自分の主観に混ざっている世の教えを徐々に取り除くことができ、聖書理解が矯正されていきます。私自身そのように学び続けたいと願っています。

もちろん、誰も聖書の真理を完全に把握することはできませんし、それぞれの理解に応じて考え方も異なります。ただし私たちが気をつけなければならないのは、自分の主観を正しいとし、虚心坦懐に聖書から学ぶ代わりに、自分の主観を聖書に押し込み、自分の主観を聖書に語らせようとする事だと思ふのです。

それぞれの理解の段階で信仰者は自分が確信を持っている主観に立って歩んでいます。聖書に照らし合わせて自分の理解を矯正する生き方、すなわち、「信仰の量りに応じて、慎み深い考え方」をするなら、聖書の真理に自分の主観を合わせていくことができるでしょう。私たちは、聖書自体が語ろうとする真理を学び取りながら歩んでいこうではありませんか。

## アダムからキリストの系図 2020年度版



預言者の名前と活躍した時代がわかりやすくなりました。  
 年代表の天地創造の後に堕落を追加するなど変更を加えました。  
 耐候性インクの使用により、色褪せしにくくなりました。

### お祈りください

- ・養成講座を通して、創造を語る人が起こされますように。
- ・創造セミナー参加者が多数与えられ、主のみわざが多くの人々に讃えられますように。
- ・アジア圏での創造宣教の働きが祝福されますように。

### 献金のお願い

国内外に創造のみわざを伝えるため、ぜひご支援ください。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

### イベント案内

#### ■創造を伝える働き人養成講座

\*2020/02/11～13

@中村キリスト教会 (高知県)

\*2020/02/15 (手話講演者の養成)

@高知聖書教会 (高知県)

\*2020/06/10～12

@富士忍野 (山梨県)

#### ■養成講座参加者リユニオン

2020/03/05～07@大洗 (茨城県)

#### ■春の創造セミナー

2020/03/30～04/01@軽井沢

#### ■第四回全アジア創造

カンファレンス台湾大会

2020/08/13～15

#### ■秋の創造セミナー

2020/10/22～24@白馬

#### ■米国創造博物館・箱船ツアー

2020/10/28～11/03

お問い合わせ・セミナーのご依頼は、  
 ジェネシスジャパンまで

## 創造を伝える働き人養成講座

### 【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる人。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じている人。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願っている人。

### 講座の目的と概要

- \*創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる
  - \*創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ
  - \*創造を伝えるのに使える資料の提供
  - \*修了証授与 (全日程参加者)
  - \*創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるように協力
- 2泊3日5食・定員12名・参加費3万円

### 講座開催予定

高知県・高知市 2020/02/15頃 (手話講師養成)

高知県・四万十市 2020/02/11～13

山梨県・忍野村 2020/06/10～12

詳細はジェネシスジャパンへお問い合わせください